

C-72 青年女子の自然立位姿勢の右側面形の観察  
文化女大家政 ○岩根娟子 中屋典子

目的 被服構成の教育を能率的に行うためには、個人個人の体型を充分認識し、補正の要因となる共通点を見いだし、それをもとにしたパターンを作成することにあると考える。そこで、今回は第1段階として青年女子の側面の体型の把握を試みた。

方法 被験者は18~19歳の女子学生105名。着装は日常用いているファンデーションを着用。姿勢は耳眼水平、つま先45度開き、全体に自然な立位の右側面をシルエッター機で撮影した。そのシルエットの頸椎点と頸窩点を結び、その線上に被服のポイントとなる点を設定した。その点から垂直線をおろして基線とし、これに直角に13箇所の後径・前径を測定し、各部位を100%とした後径と前径の比を算出した。さらに、それぞれの度数分布表に基づいて、平均値・標準偏差・変動率を求めた。

結果 その結果、胸部における後径：前径を25:75・30:70・35:65・40:60・45:55の5段階に分類し、最も人数的に集中した30:70・35:65・40:60の3形態を選び、それぞれの平均的なシルエットを作成した。3形態の主たる特徴は、後形は肩甲骨突出部と殿部突出部がほぼ同値を示すものが約65%、殿部突出部が最大値を示すものが約28%であり、中腹部では逆に着しいくぼみが見られた。前形は胸部最大突出のものが約24%、下腹部最大突出が約70%を示し、下腹部を頂点とするゆるいカーブで結ばれるものが多いことが判明した。